

中央電設株式会社によるライセンス教育講話

令和6年12月5日（木）、本校電気科1年生を対象として中央電設株式会社から講師を招き、電気設備業界や資格取得の重要性について学ぶライセンス教育講話を行いました。

この講話は高校に入学してから電気を学び始めた1年生が国家資格の重要性や電気業界の現状を知ってもらうためのものです。

高校2年生になると国家資格である第二種電気工事士の受験を予定しております。そして、本校ではそれ以外にも乙種危険物取扱者試験やボイラー技士試験などの国家資格に挑戦することができるため、資格の取得が社会でどのような役割があるのか知ってもらい、これからの学習の意欲を高めてほしいと考えておりました。

また、電気業界について実際に業務を行っている会社の方から電気や社会について教えてもらうことで、学生時代にどのように過ごしていくと良いか考えてもらう意図がありました。

当日にお越しいただいた中央電設の神舎さん、高松さん、原さん(本校OB)から、「電気」が現代社会でとても重要であり、その業務を行うためには資格の取得が必須であることを話していただきました。

生活に欠かせない重要なエネルギーである電気は、これからも無くならない重要な仕事ということを知り、自分たちが学んでいる知識や技術の重要性を知り、熱心にメモを取る生徒たちにとっても感動しました。

そして、本校の卒業生から高校時代をどのように過ごしてほしいかアドバイスを話していただくと、年代が近いこともあって、その言葉が胸に響いていたように思えます。

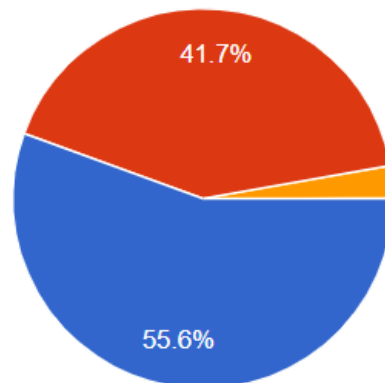
これから第二種電気工事士の受験に向けて6か月に渡る学習が始まります。大変な道のりだと思いますが、今回の講話によって高まった意識があれば、全員合格も夢ではないと感じています。このような貴重な機会をいただき、とても感謝しております。

○講話の内容



○事後アンケートによる生徒の回答

自身の成長に活かすための学びや考えを得ることができましたか



- 得ることができた
- 少しだけ得られた気がする
- あまり得られなかった
- 得ることができなかった